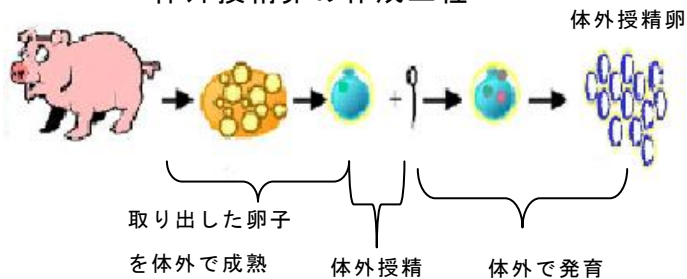


体外授精技術で貴重な豚を効率的に増やす

豚の体外授精技術とは、と畜した豚の卵巣から採取した卵子と凍結保存しておいた精子を、体外で授精させることで受精卵を作る技術です。畜産研究所では4頭の雄豚から凍結精子を作り、体外授精条件の改良に取り組みました。その結果、大幅に受精卵の発育率をアップさせることに成功しました。

今後、この方法を使うことで、貴重な品種の遺伝資源(精子・卵子)や今まで廃棄されていたと殺された優良豚の卵子から受精卵を作成し、それを代理母豚に移植することで効率よく子豚ができるようになりました。

体外授精卵の作成工程



と殺された豚の卵巣から未発達な卵子を取り出し、成熟後に体外授精させ、さらに体外で6日間発育させることで、受精卵ができます。



① と殺した豚の卵巣から体外授精用の卵子を取り出すところ

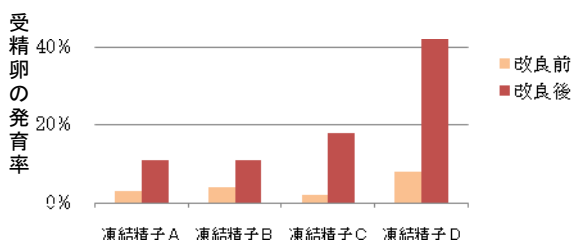


④ 発育した受精卵

② 卵子と精子を体外授

⑤ 代理母豚に貴重品種の受精卵を移植

③ 体外授精の時間や培養液の成分を改良することにより卵子からの受精卵の発育率が向上しました。



⑥ 貴重品種の子豚が誕生!